


#### 4 果 樹


項 目	作 業 内 容																																																																			
<p>(1) 果樹の生育状況</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○果樹の生育状況</li> <li>○温州みかんの生産対策</li> <li>○キウイフルーツの人工受粉</li> <li>○病虫害防除</li> </ul> <p>1 か月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が少ないものの、平均気温は高い見込みである（4月23日高松地方气象台発表）。着花管理に重要な時期であるため、気象情報に注意して計画的に作業する。</p> <p>5 月のはかんきつ類、キウイフルーツやかきなどの開花期である。発芽状況は、早生温州みかんで平年に比べ2日遅く、伊予柑は平年並みであり、発芽量はおおむね中程度となっている（下表）。また、キウイフルーツ（ヘイワード）は1日遅く、富有柿は平年並みの発芽日である。</p>																																																																			
	<p>表 県内果樹の発芽状況（2022年）</p> <table border="1" data-bbox="485 1077 1150 2056"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>年度</th> <th>発芽日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">早生温州</td> <td>2022</td> <td>4月3日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月1日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">普通温州</td> <td>2022</td> <td>4月4日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月5日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">伊予柑</td> <td>2022</td> <td>3月29日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月29日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不知火</td> <td>2022</td> <td>4月5日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ぼんかん</td> <td>2022</td> <td>4月1日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">清見</td> <td>2022</td> <td>3月28日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月25日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">河内晩柑</td> <td>2022</td> <td>3月28日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月27日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">せとか</td> <td>2022</td> <td>4月7日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月6日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">はれひめ</td> <td>2022</td> <td>4月9日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月8日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">愛媛果試第28号 (紅まどんな)</td> <td>2022</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>4月1日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">甘平</td> <td>2022</td> <td>4月3日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">キウイフルーツ (ヘイワード)</td> <td>2022</td> <td>4月1日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月31日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">富有柿</td> <td>2022</td> <td>3月27日</td> </tr> <tr> <td>平年</td> <td>3月27日</td> </tr> </tbody> </table> <p>各地域農業育成室による定点調査（農産園芸課 高度普及推進Gまとめ）</p>	種 類	年度	発芽日	早生温州	2022	4月3日	平年	4月1日	普通温州	2022	4月4日	平年	4月5日	伊予柑	2022	3月29日	平年	3月29日	不知火	2022	4月5日	平年	3月31日	ぼんかん	2022	4月1日	平年	3月31日	清見	2022	3月28日	平年	3月25日	河内晩柑	2022	3月28日	平年	3月27日	せとか	2022	4月7日	平年	4月6日	はれひめ	2022	4月9日	平年	4月8日	愛媛果試第28号 (紅まどんな)	2022	3月31日	平年	4月1日	甘平	2022	4月3日	平年	3月31日	キウイフルーツ (ヘイワード)	2022	4月1日	平年	3月31日	富有柿	2022	3月27日	平年
種 類	年度	発芽日																																																																		
早生温州	2022	4月3日																																																																		
	平年	4月1日																																																																		
普通温州	2022	4月4日																																																																		
	平年	4月5日																																																																		
伊予柑	2022	3月29日																																																																		
	平年	3月29日																																																																		
不知火	2022	4月5日																																																																		
	平年	3月31日																																																																		
ぼんかん	2022	4月1日																																																																		
	平年	3月31日																																																																		
清見	2022	3月28日																																																																		
	平年	3月25日																																																																		
河内晩柑	2022	3月28日																																																																		
	平年	3月27日																																																																		
せとか	2022	4月7日																																																																		
	平年	4月6日																																																																		
はれひめ	2022	4月9日																																																																		
	平年	4月8日																																																																		
愛媛果試第28号 (紅まどんな)	2022	3月31日																																																																		
	平年	4月1日																																																																		
甘平	2022	4月3日																																																																		
	平年	3月31日																																																																		
キウイフルーツ (ヘイワード)	2022	4月1日																																																																		
	平年	3月31日																																																																		
富有柿	2022	3月27日																																																																		
	平年	3月27日																																																																		

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 温州みかんの生産対策</p>	<p>今年の温州みかんは裏年にあたるが、愛媛県内の令和4年産用の結果母枝数は、JA全農えひめ調べで昨年比120%、平年比107%と比較的多い。しかし、園地や樹によるバラツキがあるため、樹ごとの着花量に応じて花芽管理していく。</p> <p>ア 芽かき 着花の少ない樹では、新梢の発生が多く、花一新梢間で養分競合が起こり、生理落果が助長される。結果率を高めるため、着花を確認後、着花部位周辺の芽かきとかぶさり枝の除去を行い、花に光を当てて養分競合を防ぐ。</p> <p>イ 摘蕾 着花の多い樹では、側枝単位で摘蕾して新梢発生を促す。摘蕾は、蕾が膨らみかけて開花するまでに行うのが適当であり、遅れると新梢発生が悪くなる。直花が団子状に着いた、極端に花の多い樹から摘蕾していく。</p> <p>ウ 液肥の葉面散布 貯蔵養分不足樹の樹勢回復、健全樹においては新梢充実と果実肥大促進を目的として、開花前にチッ素主体の液肥を数回、葉面に散布する。</p> <p>エ 夏肥の施用 5月は地温上昇に伴って根の活性が高まり、肥料の吸収効率も高まる。夏肥は樹勢の維持、果実肥大、新葉の充実を図るための大切な肥料である。施肥量については、今年の着花状況に応じて調整し、普通温州では10aあたりチッ素成分量で5kg程度、5月下旬に施用する（愛媛県施肥基準）。</p>
<p>(3) キウイフルーツの人工受粉</p>	<p>人工受粉は、結実安定や大玉生産のために欠かせない作業である。雌花の受精能力は開花後3日程度までであることから、開花後ただちに雌しべの柱頭部に花粉がしっかりと付くよう受粉する。受粉中や受粉後の降雨は受精に影響するため、悪天候時は受粉作業を控える。</p> <p>液体増量剤を利用した液体受粉の作業時間は、梵天受粉の45%、機械受粉の70%程度となっている。多少の雨でも、従来の粉末受粉と同等の果実肥大効果が得られるため、経済性・作業性の面で有効である。ただし、受粉効果の実証された「ヘイワード」を中心に利用することを心掛ける。</p>



写真1 液体受粉後の雌花

項 目	作 業 内 容
<p>(4) 病害虫防除</p>	<p>ア かんきつ類</p> <p>(ア) かいよう病</p> <p>5月は越冬病斑から病原細菌の流出量が徐々に増加し、新葉への感染が始まる時期となる。新梢への感染防止対策として、開花前にICボルドー66D 80倍（パラフィン系展着剤加用）等で防除する必要がある。また、罹病枝葉（特に夏秋梢）を除去するとともに、防風ネットや防風垣を整備すると良い。</p> <p>(イ) 灰色かび病</p> <p>開花期の前後に降雨や曇天が多く、低温多湿な気象条件で多発する。花卉の落ちにくい温州みかんや「清見」などで被害が大きい。防除は、満開期～落弁直後にフロンサイド SC 2,000倍やロブラール水和剤 1,500倍、ストロビードライフロアブル 2,000倍などで実施する。</p> <p>(ウ) そうか病</p> <p>伝染源となる病原胞子は多湿条件下で形成されるため、多雨時や霧が発生する時期にそうか病は多発する。葉や果実、枝に病斑を形成し、新芽が伸び始めたところに降雨があると、新芽部位に感染し、その上にまた新しい胞子を形成して二次感染を繰り返す。薬剤防除は、落弁期にナリア WDG 2,000倍やフロンサイド SC 2,000倍などで行う。</p> <p>(エ) 訪花害虫・アザミウマ類</p> <p>主な加害種はケンキスイ類やコアオハナムグリであり、吸蜜の際、果実となる部分に爪で傷を付ける。アザミウマ類も外観を損ねる要因のひとつであり、これら害虫に対しては飛来数が多くなる前、2～3割開花時にモスピラン顆粒水溶剤4,000倍やオリオン水和剤40 1,000倍などで防除する。</p> <p>(オ) チャノホコリダニ</p> <p>常発園や前年発生園では、落弁直後（5～10日後）にサンマイト水和剤3,000倍やフロンサイドSC 2,000倍などを散布する。</p>  <p>写真2 チャノホコリダニ被害果</p> <p>イ 落葉果樹</p> <p>(ア) キウイフルーツ花腐細菌病</p> <p>本病の病原細菌は雨によって増殖し感染していく。感染時期は開花前の裂蕾期ごろであり、5月中旬～下旬に降雨が多いと発生が助長される。そのため、開花前の5月中旬にアグリマイ</p>

項 目	作 業 内 容
	<p>シン-100 1,000 倍などを散布する。また、5月上旬（満開 20～25 日前）に、主幹部に環状剥皮処理（3～5 mm 幅）することで発病を抑制できる。しかし、環状剥皮は樹勢低下を招く恐れがあるため、樹勢の弱い樹や発病の少ない園、キウイフルーツかいよう病の発生が懸念される園では処理しない。</p> <p>(イ) キウイフルーツかいよう病</p> <p>本病予防や被害拡大防止のため、銅剤等での薬剤散布徹底に加えて定期的な園地巡回により、発病した場合の早期発見に努める。特に、新梢伸長期～開花期にかけては感染リスクが高いため重点的にモニタリングし、葉や花蕾の褐変、枝幹等からの樹液流出、新梢の枯死といった症状が確認されたら、当該部分を切除して適切に処分する。</p>  <p>写真3 葉の褐変症状</p> <p>(ウ) かき炭疽病</p> <p>本病は枝や幼果、成熟果、葉柄に発生し、発病部分には雨が降った後に赤橙色の塊状胞子が観察される。新梢発育期となる5月は、ジマンダイセン水和剤600倍などでの防除に努める。また、発病枝は早期に除去して園外で適切に処分する。</p>

(作成 果樹研究センター)